

大会名 Competition	第26回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-103	Year Month Day Time 2013 年 5 月 3 日 12 : 10
場 所 Place	能代市総合体育館



チームA 市立船橋 54 ●	<table border="1"> <tr><td>11 1st</td><td>21</td></tr> <tr><td>15 2nd</td><td>11</td></tr> <tr><td>13 3rd</td><td>16</td></tr> <tr><td>15 4th</td><td>16</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	11 1st	21	15 2nd	11	13 3rd	16	15 4th	16	OT		チームB 延岡学園 64 ○
11 1st	21											
15 2nd	11											
13 3rd	16											
15 4th	16											
OT												

主審:Referee 藤垣 庸二 宮城県
副審:Umpire 栗田 充伯 山形県
古川 俊和 福島県
テーブルオフィシャル:Table officials 能代松陽(女)

No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	阿 部 諒	CAP	6	1	1	1	3	4	×	夏 井 隆 光	CAP	6	0	3	0	3
5		川 島 翔 吾		-	-	-	-	0	5	／	マ ム シェ ッ ハ		3	0	1	1	0
6	×	高 澤 淳		22	4	4	2	1	6	×	松 田 将 馬		10	2	2	0	2
7	×	山 本 健 太		10	1	2	3	3	7		青 木 風 斗		-	-	-	-	0
8	／	榎 雄 大		0	0	0	0	2	8		大 西 健 斗		-	-	-	-	0
9	×	佐々木 弘 太		2	0	1	0	2	9	×	古 沢 秀 美		2	0	1	0	2
10		柘 植 晴 登		-	-	-	-	0	10		石 田 裕 太 郎		-	-	-	-	0
11	／	山 崎 豊		0	0	0	0	0	11		根 元 雅 敏		-	-	-	-	0
12		八重澤 洋 平		-	-	-	-	0	12		ナ ロ ン 竜 平		-	-	-	-	0
13		藤 本 利 樹		-	-	-	-	0	13	／	塩 月 絃 生		0	0	0	0	1
14	／	戸 田 貴 太		1	0	0	1	2	14	／	野 中 亮 吾		2	0	1	0	1
15	×	青 木 太 一		7	0	3	1	2	15	×	パ ッ プ マ リ ッ ク		33	0	15	3	4
16		杉 田 涼		-	-	-	-	0	16	×	田 上 元 己		8	0	3	2	3
17	／	平 良 彰 吾		6	1	1	1	1	17	／	五 代 雅 己		0	0	0	0	0
18		山 谷 雄 大		-	-	-	-	0	18	／	染 川 昂		0	0	0	0	0
コチ		近 藤 義 行							コチ		川 添 祐 司						
アコチ		相 川 宙 輝							アコチ		内 村 昌 弘						
合 計				54	7	12	9	16	合 計				64	2	26	6	16

※×:スター 〃:交代選手 PTS:ポイント 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

第1Q、ハーフコートマンツーマンで両チームがスタートする。先制点は延岡学園。#6松田の3ポイントシュートが決まる。その後も#15マリックのインサイドを中心に攻めた延岡学園が序盤を2-10とリードする。中盤になり、市船橋は#6高澤、#7山本の3ポイントシュートが決まり、追い上げ始めるが、延岡学園も#15マリックがリバウンド、ゴール下のシュートで活躍し、リードを譲らない。延岡学園はその後、#15マリックと代わった#5シェッハもゴール下で得点し、11-21と10点をリードして第1Qを終えた。

第2Q、市船橋は、厳しいディフェンスを展開し、延岡学園に得点を許さない。その間にアウトサイドを中心に加点し、18-21と3点差まで追い上げる。8:01にスターターに戻した延岡学園は、#6松田の3ポイントシュートと#4夏井のファーストブレイク等で点差を広げ、6:16までに18-28と10点差を付ける。ここでタイムアウトを取った市船橋は、その後の延岡学園のオフェンスで24秒バイオレーションを誘う等、さらに厳しいディフェンスを見せ、#6高澤のファーストブレイクにつなげるなど、このピリオドを15-11とし、ピハインドながら点差を6点に詰め、26-32で前半を終える。

第3Qも両チームのディフェンスが光る展開となる。延岡は、#15マリックが第3Qだけで2つのブロックショットを決めるが、市船橋はアリウープを狙ったパスを#7山本がカットする等、延岡学園のインサイドを封じ込める。4:28に延岡学園が取ったタイムアウト後に市船橋はフルコートマンツーマンにディフェンスがチェンジし、点差を縮めようとするが、延岡学園#15マリックのシュートは止められない。交互に点数を入れる展開の第3Qは、13-16で延岡学園がリードを広げ、合計スコアを39-48とする。

第4Q、市船橋は変わらずディフェンスが良く、延岡学園に得点を許さないが、2つのオフェンスファウルを記録する等、自分たちも得点できない展開となる。延岡学園は、3連続でファウルをし、#15マリックの個人ファウルが4つになる等、悪い流れのようにも見えたが、ここから#15マリックが10得点する。その間にブロックショットを2つ記録する等、大車輪の活躍となる。市船橋は、2:19のタイムアウト明けにディフェンスのプレッシャーをさらに強め、延岡学園のミスを誘って連続加点し、52-60とする。しかし、延岡学園は、#16田上が速攻から4得点し、54-64でタイムアップ。延岡学園が、厳しいディフェンスを見せた市船橋を振り切り1勝目を挙げた。